プログラム 11 月 15 日（土）

第 1 会場　5F エミネンスホール

9:00～9:20　会長挨拶・講演

座長：小川 秀興（学校法人順天堂 理事長）

PL　Keep Moving Forward“不断前進する皮膚科学”
須賀 康（順天堂大浦安病院）

9:30～10:30　会長企画 1【医史学の歴史散歩】

座長：髙森 建二（順天堂大浦安病院）

SP1-1　タイムトラベル医学部・医科大学―そのルーツとレジェンドを訪ねて―
山田 裕道（順天堂大医史学研究室/沢野クリニック）

座長：山田 裕道（順天堂大医史学研究室/沢野クリニック）

SP1-2　日本医学教育歴史館について
村上 歩（順天堂大医史学研究室/順天堂大大学院公衆衛生学講座/北里大衛生学/株式会社牧野フライス製作所）

総合討論　歴史クイズで楽しく学ぼう！（山田裕道、村上歩）

10:40～11:40　会長企画 2

座長：須賀 康（順天堂大浦安病院）
川内 康弘（東京医大茨城医療センター）

SP2　この 1 時間で変わる!ChatGPT 最新活用術
大塚 篤司（近畿大）

11:50～12:50　ランチョンセミナー 1【アトピー性皮膚炎の治療戦略～長期コントロールを目指す～】

座長：中原 剛士（九州大）
川田 暁（近畿大名誉教授）

LS1-1　臨床経験に基づいたアトピー性皮膚炎の長期治療戦略
～長期コントロールにおけるアドトラーザ®の役割～
萩野 哲平（日本医大千葉北総病院）

LS1-2　アドトラーザ®の実臨床を Brush up！！
武岡 伸太郎（武岡皮膚科クリニック　香川県丸亀市）

共催：レオ ファーマ株式会社

13:00～14:00 特別講演 1

座長：藤本 学（大阪大）
須賀 康（順天堂大浦安病院）

SL1 見える老化・見えない老化：生物学的年齢から考えるアンチエイジング
山田 秀和（近畿大アンチエジングセンター）

14:10～15:10 特別講演 2

座長：安齋 眞一（（株）ピーシーエルジャパン PCL 飯田橋病理・細胞診センター）
門野 岳史（聖マリアンナ医大）

SL2 不断前進するダーモスコピー診断
田中 勝（杏林大）

15:20～16:20 アフターヌーンセミナー 1 【患者さんの悩みに寄り添ったアトピー性皮膚炎治療戦略】

座長：井川 健（獨協医大）
杉浦 一充（藤田医大）

AS1-1 患者のウェルビーイングを実現するアトピー性皮膚炎診療を目指して～ネモリズマブの導入例、PRO 評価の重要性も含めて～
川島 裕平（東京都済生会中央病院）

AS1-2 患者のかゆみと向き合ってみる～かゆみを診ると診療が変わる～
杉山 晃子（福岡病院アレルギー科/福岡病院アレルギーセンター）

共催：マルホ株式会社

16:30～17:30 特別講演 3

座長：宮地 良樹（静岡社会健康医学大学院大）

SL3 川島 眞が直言する：美容皮膚科・アンチエイジングは前進しているか？
川島 眞（東京女子医大名誉教授）

17:40～18:40 海外特別講演

座長：山本 明美（旭川医大名誉教授）
秋山 真志（名古屋大）

IL From Ichthyosis to EDD：Reclassifying Keratinization Disorders to Enable Targeted Therapy
Amy Paller（Depts of Dermatology and Pediatrics, Northwestern Univ. Feinberg School of Medicine, Chicago, IL USA）

18:40～18:55 写真撮影

第２会場　5F コンコードボールルーム C

9:30～11:30　シンポジウム 1【不断前進～皮弁マスターへの第一歩　基本の三大皮弁～】

座長：大原 國章（赤坂虎の門クリニック）
金子 高英（順天堂大浦安病院）

SY1-1　切って寄せる、その先へ～前進皮弁の基本と応用～
前川 武雄（自治医大さいたま医療センター）

SY1-2　顔面再建における回転皮弁の基本と応用
須山 孝雪（獨協医大埼玉医療センター）

SY1-3　Transpositon flap
岸 晶子（虎の門病院）

11:50～12:50　ランチョンセミナー 2【アトピー性皮膚炎の最新治療】

座長：加藤 則人（京都府立医大）
沖山 奈緒子（東京科学大）

LS2-1　アトピー性皮膚炎の治療戦略をバージョンアップさせる
～オルミエントの使いどころ～
野村 有子（野村皮膚科医院　神奈川県横浜市）

LS2-2　新たな時代を迎えたアトピー性皮膚炎治療～イブグリースの特徴と使い方～
茂木 精一郎（群馬大）

共催：日本イーライリリー株式会社

13:00～15:00　シンポジウム 2【基礎から学ぶ、あたらしい角化症】

座長：秋山 真志（名古屋大）
杉浦 一充（藤田医大）

SY2-1　これまで遺伝性角化症等と呼ばれてきた疾患を包括する新国際病名「表皮分化疾患」
秋山 真志（名古屋大）

SY2-2　基礎から学ぶ、あたらしい魚鱗癬
武市 拓也（名古屋大/名古屋大高等研究院）

SY2-3　掌蹠角化症の診断法
乃村 俊史（筑波大）

SY2-4　IL-36 誘導性膿疱症スペクトラム：病態・遺伝・診断・治療の最前線
杉浦 一充（藤田医大）

15:20～16:20　アフターヌーンセミナー 2【アトピー性皮膚炎・乾癬の治療戦略を考える】

座長：菅谷 誠（国際医療福祉大）
馬渕 智生（東海大）

AS2-1　アトピー性皮膚炎における外用治療戦略 update
石氏 陽三（東京慈恵会医大）

AS2-2　乾癬治療におけるブイタマークリームの役割と展望―AhR アゴニストの可能性を探る―
鎌田 昌洋（帝京大）

共催：鳥居薬品株式会社

第 3 会場　5F コンコードボールルーム B

9:30～10:30　教育講演 1【蕁麻疹診療～beyond ガイドライン～】

座長：猪又 直子（昭和医大）
五十嵐 敦之（いがらし皮膚科東五反田）

EL1-1　慢性特発性蕁麻疹における生物学的製剤毎の至適患者像
葉山 惟大（日本大）

EL1-2　蕁麻疹診療ガイドラインの改定の検討ポイントを踏まえた蕁麻疹の診断治療戦略
福永 淳（大阪医科薬科大）

10:40～11:40　教育講演 3【不断前進の痤瘡の研究と治療】

座長：山﨑 修（島根大）
林 伸和（虎の門病院）

EL3-1　ざ瘡の引き金は炎症か角栓か？
大日 輝記（香川大）

EL3-2　痤瘡治療とスキンケアの最前線
木村 有太子（順天堂大）

11:50～12:50　ランチョンセミナー 3【Q スイッチヤグレーザーと IPL について】

座長：秋田 浩孝（藤田医大ばんたね病院）
尾見 徳弥（クイーンズスクエアメディカルセンター）

LS3-1　Q スイッチレーザーの再発見～色素性疾患と赤み治療の実際～
木村 有太子（順天堂大/ドクタースパ・クリニック　東京都渋谷区）

LS3-2　IPL の可能性～広域波長だからできること～
野本 真由美（野本真由美スキンケアクリニック　新潟県新潟市/野本真由美クリニック銀座　東京都中央区）

共催：Jeisys Medical Japan 株式会社

13:00～15:00　シンポジウム 3【皮膚真菌症の日進月歩：日常診療に不可欠な最新知識を学ぶ】

座長：原田 和俊（東京医大）
小川 祐美（順天堂大順天堂医院）

SY3-1　皮膚真菌症診療ガイドラインの改訂ポイント
福田 知雄（埼玉医大総合医療センター）

SY3-2　薬剤耐性白癬菌
木村 有太子（順天堂大）

SY3-3　Biologics 治療中に生ずる皮膚真菌症
南 圭人（東京医大）

SY3-4　皮膚常在真菌マラセチアは善か悪か―分子から明らかになるその役割―
張 音実、杉田 隆
（明治薬科大微生物学研究室）

15:20～16:20　アフターヌーンセミナー 3【未来がひろがる乾癬治療を。】

座長：高橋 健造（琉球大）
大槻 マミ太郎（自治医大）

AS3-1　乾癬治療における戦略的ステップアップ
～ソーティクツによる早期介入と治療の革新～
善家 由香理（聖路加国際病院）

AS3-2　内服でここまでできる～ソーティクツの実臨床での活用と長期的な視点～
大霜 智子（大阪公立大）

共催：ブリストル・マイヤーズ スクイブ株式会社

第 4 会場　5F コンコードボールルーム A

9:30～10:30　教育講演 2【白斑最前線～研究と治療のアップデート】

座長：堺 則康（東京医大）
大磯 直毅（近畿大奈良病院）

EL2-1　尋常性白斑治療の研究について―最近の知見および我々の研究内容をご紹介―
種村 篤（大阪大）

EL2-2　尋常性白斑の臨床について　新規治療メラノサイト含有自家培養表皮ジャスミン™を含めて
阿部 名美子（東京医大）

10:40～11:40　教育講演４【次世代につなぐ、前進する膠原病診療】

座長：石黒 直子（東京女子医大）
川上 民裕（川上皮膚科クリニック）

EL4-1　知ってとくするエリテマトーデス・シェーグレン症候群の診療
新井 達（聖路加国際病院）

EL4-2　知って得する全身性強皮症の診療
住田 隼一（東京大）

11:50～12:50　ランチョンセミナー４【膿疱性乾癬の疾患理解を深める】

座長：伊藤 寿啓（東京慈恵会医大第三病院）
小宮根 真弓（自治医大）

LS4-1　膿疱性乾癬の最新知見
岸本 恵美（自治医大）

LS4-2　実臨床での膿疱性乾癬の診断 ―悩むケースと悩まないケース―
阿部 名美子（東京医大）

共催：レオ ファーマ株式会社 メディカルアフェアーズ部/
日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社 医薬開発本部

13:00～14:00　教育講演５【不断前進する本邦メラノーマの医療と研究】

座長：中村 泰大（埼玉医大国際医療センター）
舩越 建（慶應義塾大）

EL5-1　メラノーマ治療の進歩と今後の展望
並川 健二郎（国立がん研究センター中央病院）

EL5-2　不断前進するメラノーマに対するがん免疫療法
猪爪 隆史（千葉大）

14:10～15:10　教育講演６【皮膚ウイルス感染症―帯状疱疹と疣贅の診療最前線―】

座長：渡辺 大輔（愛知医大）
三石 剛（さいたま赤十字病院）

EL6-1　HPV の検査法～皮膚科臨床検体を用いた解析～
清水 晶（金沢医大）

EL6-2　痛みだけじゃない！帯状疱疹の注意すべき合併症
松尾 光馬（中野皮膚科クリニック　東京都中野区）

15:20～16:20 アフターヌーンセミナー４
【ドボベット®フォームの特徴から考える乾癬外用療法の可能性】

座長：鳥居 秀嗣（東京山手メディカルセンター）
藤田 英樹（日本大）

AS4-1 ドボベット®フォームの今後を考える～多様化する病態理解と乾癬治療～
柴田 彩（東京大）

AS4-2 乾癬の外用療法はいつまで続けるか～ドボベット®フォームの使い方と工夫～
橋本 由起（東邦大）

共催：レオ ファーマ株式会社

第５会場 4F 花A

11:50～12:50 ランチョンセミナー５【ウイルス性疣贅～治療最前線 2025～】

座長：清水 晶（金沢医大）
三石 剛（さいたま赤十字病院）

LS5-1 小児のいぼ治療 Up to date
三石 剛（日本赤十字社さいたま赤十字病院）

LS5-2 難治性疣贅治療のコツ
小林 里実（聖母病院）

共催：小太郎漢方製薬株式会社

13:00～14:05 一般演題７【アトピー性皮膚炎①】

座長：神田 奈緒子（日本医大千葉北総病院）
海老原 全（済生会中央病院）

46 デュピルマブ投与歴のあるアトピー性皮膚炎患者に対するレブリキズマブの有効性、安全性及び患者 QOL 評価：ADapt 試験
松尾 崇史[1]、J Silverberg[2]、L Ackerman[3]、J Bagel[4]、L Gold[5]、A Blauvelt[6]、D Rosmarin[7]、R Chovatiya[8]、M Zirwas[9]、G Yosipovitch[10]、J Waibel[11]、J E Murase[12]、B Lockshin[13]、J Weisman[14]、A Atwater[1]、J Proper[1]、M Silk[1]、E Pierce[1]、M.L. Piruzeli[1]、S Montmayeur[1]、C Schuster[1]、J Zhong[15]、M Rueda[1]、S Pillai[1]、E Simpson[16]
[1]Lilly、[2]GWU、[3]U.S. Dermatology Partners、[4]Psoriasis Treatment Center of Central NJ、[5]Henry Ford Hosp、[6]Blauvelt Consulting、[7]IU School of Medicine、[8]RFU、[9]Probity Medical Research & Ohio Univ.、[10]Miller School of Medicine、[11]Miami Dermatology & Laser Inst、[12]UC San Francisco & Palo Alto Foundation Med Group、[13]DermAssociates、[14]Medical Dermatology Specialists、[15]IQVIA、[16]OHSU

47 中等症～重症アトピー性皮膚炎患者に対するレブリキズマブの有効性と安全性：ADjoin 試験最大 3 年の結果

小泉 稔[1]、D Thaci[2]、A Irvine[3]、E Simpson[4]、M Gooderham[5]、S Weidinger[6]、L Spelman[7]、J Silverberg[8]、H Elmaraghy[1]、L DeLuca-Carter[1]、H Crane[1]、M.L. Piruzeli[1]、C Hu[1]、E Pierce[1]、H Agell[9]、E Guttman-Yassky[10]
[1]Lilly、[2]Uni of Lubeck、[3]CHI、[4]OHSU、[5]SKiN、[6]Uni Hos Schleswig-Holstein、[7]Veracity Clinical Research、[8]GWU、[9]Almirall、[10]Icahn School of Medicine

48 アトピー性皮膚炎患者の病変部位とバリシチニブ治療、実臨床下の国際横断オンライン患者調査

檀上 淳一[1]、A Pinter[2]、Z Reguiai[3]、T Werfel[4]、A Schlobe[5]、A Lampropoulou[1]、S Grond[1]、M Augustin[1]、A Pink[1,6]
[1]Lilly、[2]Universitatsmedizin Frankfurt、[3]Polyclinique Courlancy-Bezannes、[4]Hannover Med School、[5]UKE、[6]Guy's and St Thomas

49 実臨床における日本のアトピー性皮膚炎に対するバリシチニブ使用患者（15 歳以上）の特性及び治療パターン：後ろ向き観察研究

茂木 精一郎[1]、小島 泰輔[2]、三木 康裕[2]、松尾 崇史[2]、板倉 仁枝[2]、佐伯 秀久[3]
[1]群馬大、[2]日本イーライリリー株式会社、[3]日本医大

50 デュピルマブで効果不十分のアトピー性皮膚炎のレブリキズマブ治療へのスイッチの有効性

蒲原 礼央[1]、萩野 哲平[2]、内山 明彦[3]、恩田 茉利奈[1]、小坂 啓寿[3]、荒木 健[3]、茂木 精一郎[3]、佐伯 秀久[1]、藤本 栄大[4]、神田 奈緒子[2]
[1]日本医大、[2]日本医大千葉北総病院、[3]群馬大、[4]ふじもと皮フ科クリニック　千葉県船橋市

51 アトピー性皮膚炎患者における機械的アロネーシスと病勢関連パラメータの相関分析

宇藤 優[1,2]、古宮 栄利子[1,3]、小島 豪[1,2]、金子 高英[2]、須賀 康[2]、冨永 光俊[1]、高森 建二[1,2]
[1]順天堂大環境医学研究所・順天堂かゆみセンター、[2]順天堂大浦安病院、[3]順天堂大薬学部機能形態学分野

52 中等症～重症アトピー性皮膚炎に対するウパダシチニブ長期（48 週）治療の responder を予測する因子の検討

蒲原 礼央[1]、萩野 哲平[2]、佐伯 秀久[1]、藤本 栄大[3]、神田 奈緒子[2]
[1]日本医大、[2]日本医大千葉北総病院、[3]ふじもと皮フ科クリニック　千葉県船橋市

53 Total eosinophil count はアトピー性皮膚炎のウパダシチニブ治療効果の指標となりうる

芝 美月[1]、萩野 哲平[1]、佐伯 秀久[2]、藤本 栄大[3]、神田 奈緒子[1]
[1]日本医大千葉北総病院、[2]日本医大、[3]ふじもと皮フ科クリニック

14:05～15:10　一般演題 8【アトピー性皮膚炎②】

座長：端本 宇志（防衛医大）
宇賀神 つかさ（武蔵野赤十字病院）

54　アトピー性皮膚炎患者を対象としたコレクチム®軟膏の一般使用成績調査の中間集計結果

和泉 慶亮[1]、伊藤 さやか[1]、堀川 英治[1]、西野 範昭[1]、奥田 優理[2]、後藤 佑樹[2]、
山田 良一[2]
[1]鳥居薬品株式会社安全情報管理部、[2]日本たばこ産業株式会社医薬事業部医薬情報部

55　実臨床における中等症～重症のアトピー性皮膚炎に対するレブリキズマブ 16 週治療の有効性と安全性

岡野 史沙[1]、萩野 哲平[2]、内山 明彦[3]、恩田 茉利奈[1]、小坂 啓寿[3]、荒木 健[3]、
茂木 精一郎[3]、佐伯 秀久[1]、藤本 栄大[4]、神田 奈緒子[2]
[1]日本医大、[2]日本医大千葉北総病院、[3]群馬大、
[4]ふじもと皮フ科クリニック　千葉県船橋市

56　トラロキヌマブで効果不十分のアトピー性皮膚炎患者のレブリキズマブ治療へのスイッチの有効性

岡野 史沙[1]、萩野 哲平[2]、内山 明彦[3]、小坂 啓寿[3]、荒木 健[3]、佐伯 秀久[1]、
藤本 栄大[4]、茂木 精一郎[3]、神田 奈緒子[2]
[1]日本医大、[2]日本医大千葉北総病院、[3]群馬大、
[4]ふじもと皮フ科クリニック　千葉県船橋市

57　65 歳以上の中等症から重症アトピー性皮膚炎患者におけるトラロキヌマブの長期安全性及び有効性

伊藤 友章[1]、Andrew Blauvelt[2]、Joseph F. Merola[3]、Jose Manuel Carrascosa[4]、
Albert Bosch Vilaro[5]、Christian Bjerregard Oland[5]、Le Gjerum[5]、Kristian Reich[6]
[1]東京医大、[2]Blauvelt Consulting、[3]UT Southwestern Medical Center、
[4]Hospital Universitari Germans Trias i Pujol、[5]LEO Pharma A/S、
[6]University Medical Center Hamburg-Eppendorf

58　成人および青年の中等症から重症のアトピー性皮膚炎患者におけるトラロキヌマブの長期安全性と有効性（最長 6 年間の治療）

小寺 雅也[1]、Andrew Blauvelt[2]、Vivian Laquer[3]、Richard G Langley[4]、
H. Chih-ho Hong[5]、Christian Bjerregard Oland[6]、Le Gjerum[6]、Ann-Marie Tindberg[6]、
Kristian Reich[7]
[1]中京病院、[2]Blauvelt Consulting、[3]First OC Dermatology Research, Fountain Valley、
[4]Dalhousie University、[5]Dr. Chih-ho Hong Medical Inc.、[6]LEO Pharma A/S、
[7]University Medical Center Hamburg-Eppendorf

59　アトピー性皮膚炎の痒みにおける表皮 TRPV4 発現の影響

堀田 真央[1]、加茂 敦子[2]、金子 高英[3]、須賀 康[3]、冨永 光俊[1]、高森 建二[1,3]
[1]順天堂大環境医学研究所・順天堂かゆみ研究センター、
[2]順天堂大医療看護学部・大学院医療看護学研究科、[3]順天堂大浦安病院

60　ウパダシチニブ内服中に髄膜炎を併発した播種性 VZV 感染の 1 例

小竹 久美子、大嶋 雄一郎、渡辺 大輔
愛知医大

61　アトピー性皮膚炎に対するレブリキズマブの４週以降４週間隔投与の有効性と安全性
岡田 善輝、鎌田 昌洋、伊藤 誠時、渡辺 愛友、千々和 智佳、戸村 八蓉生、
日浦 梓、林 耕太郎、田中 隆光、福安 厚子、水川 伊津美、竹島 良輔、多田 弥生
帝京大

15:20～16:20　アフターヌーンセミナー５【「すぐに使える光線療法」～UVB-LED の技術的な特性・リスクを克服した治療器として～】

座長：谷崎 英昭（関西医大）
金子 高英（順天堂大浦安病院）

AS5-1　困難な皮膚疾患にも光明を―エキシマライト活用の実際
高山 かおる（済生会川口総合病院）

AS5-2　セラビームと 16 年
新澤 みどり（にいざわ皮ふ科　長野県長野市）

共催：ウシオ電機株式会社

16:30～17:30　教育講演７【病態から考える脱毛症診断・治療】

座長：大山 学（杏林大）
植木 理恵（順天堂大順天堂東京江東高齢者医療センター）

EL7-1　病態から考える脱毛症の実践治療
内山 真樹（東京医大）

EL7-2　脱毛症の病態と診断～今後の展望とともに～
木下 美咲（杏林大）

17:40～18:40　イブニングセミナー１【皮膚へのスキンケアアプローチ～皮膚疾患ケアからキレイな肌への挑戦～】

座長：青山 裕美（川崎医大）
渡邉 玲（順天堂大）

ES1-1　病院における保湿ケアの重要性について
伊藤 寿啓（東京慈恵会医大第三病院）

ES1-2　“美容への誘導”だけではないスキンケア指導　―保険の皮膚科医だからできること―
横井 彩（日本橋いろどり皮ふ科クリニック　東京都中央区）

共催：グラファラボラトリーズ株式会社

第６会場　4F 錦

9:30～10:35　一般演題 1【感染①】

座長：髙橋 一夫（公立昭和病院）
稲福 和宏（君津中央病院）

159　Beyond the Petri Dish：The Aesthetics of Fungal World
Xin Ran
Dermatology Department, West China Hospital, Sichuan University, Chengdu, China

1　院内感染を起こさなかった角化型疥癬
百瀬 葉子[1]、阿部 典文[2]
[1]ももせ皮膚科　神奈川県相模原市、[2]淵野辺総合病院外科

2　*Helicobacter cinaedi* による再発性蜂窩織炎の２例
小泉 彩佳、田中 瀬奈、岩本 雄太郎、船積 雅登、並木 剛、沖山 奈緒子
東京科学大

3　右臀部の皮下硬結を触れる紫斑として発症した Herpes vegetans の 1 例
石田 美紗、岩田 洋平、杉浦 一充
藤田医大

4　小児疥癬におけるフェノトリンローションの安全性と有効性について
木村 真衣[1,2]、石井 則久[1]
[1]国立療養所多磨全生園、[2]杏林大

5　胆摘後の持続的十二指腸ドレナージが契機となった壊疽性膿瘡の 1 例
三上 眞由[1]、兵頭 美咲[1]、千葉 馨[1]、石河 杏奈[1]、大澤 絢香[1]、小笹 美蘭[1]、
勝又 文徳[1]、松崎 大幸[1]、出来尾 格[1]、延山 嘉眞[1]、朝比奈 昭彦[1]、谷合 智彦[2]
[1]東京慈恵会医大、[2]東京慈恵会医大肝胆膵外科

6　ヒトヒフバエによる皮膚蠅蛆症の 1 例
伴 咲里奈[1]、野々垣 彰[1]、竹島 良輔[1]、小原 明希[1]、北原 祐里恵[1]、榊原 萌[1]、
岩元 典子[2]、犬丸 瑞枝[3]、糸川 健太郎[3]、葛西 真治[3]、玉木 毅[1]
[1]国立国際医療センター、[2]国立国際医療センター総合感染症科、
[3]国立感染症研究所昆虫医科学部

7　落葉状天疱瘡に対するステロイド投与中に生じた白癬性肉芽腫の 1 例
秦 弘海、栗田 昂幸、吉川 征吾、吉濱 絵里、種瀬 啓士、石河 晃
東邦大

10:35～11:40　一般演題 2【感染②】

座長：深井 達夫（順天堂大練馬病院）
阿部 澄乃（東京臨海病院）

8　PVL かつ TSST-1 陽性の MRSA による Toxic shock syndrome の 1 例
杉浦 暖人、小林 咲慧、松本 桂、蒲原 毅
横浜市立市民病院

9　顔面に生じた皮膚抗酸菌感染症の 1 例
野村 かれん、福地 健祐、本田 哲也
浜松医大

10　生検組織像で肉芽腫形成を認めた梅毒の 1 例
佐藤 梢、高田 満喜、大塚 幹夫、山本 俊幸
福島県立医大

11　有棘細胞癌転移との鑑別を要した播種性ノカルジア症の 1 例
青木 佐由美[1]、関山 竜五[1]、鈴木 魁杜[1]、石月 翔一郎[1]、上原 治朗[1]、後藤 啓介[2]、
秋谷 昌史[2]、北野 滋久[3]、羽山 ブライアン[4]、吉野 公二[1]
[1]がん研究会有明病院、[2]同病理部、[3]同先端医療開発科、[4]同感染症科

12　半年間、伝染性膿痂疹として治療を受け続けていた *Microsporum canis* による頭部および体部白癬の小児例
北見 由季
牧田総合病院

13　水頭症に対するシャント感染を伴い、抗菌薬治療に抵抗性を示した播種性非結核性抗酸菌症の 1 例
東野 瑠華[1]、堀川 弘登[1]、高橋 ちあき[1]、角田 梨沙[1]、渡辺 絵美子[2]、飯塚 紳[3]、
吉藤 歩[4]、柴田 納央子[4]、南宮 湖[4]、足立 剛也[1]
[1]慶應義塾大、[2]済生会横浜市東部病院、[3]同大呼吸器内科学、[4]同大感染症学

14　画像所見で感染臓器を認めなかった敗血症疹の 1 例
三間 芳人[1,2]、山本 真紗子[1,2]、五十棲 健[2]
[1]東京大、[2]東京警察病院

15　テルビナフィン耐性例を含む角化型足白癬に対するルリコナゾール外用剤の効果
野口 博光[1,2]、松本 忠彦[1,2]、大原 彩加[3]、林 大貴[4]、柏田 香代[4]、久保 正英[1]、
加納 塁[5]、福島 聡[4]
[1]のぐち皮ふ科　熊本県上益城郡、[2]お茶の水真菌研究所、[3]防衛医大、[4]熊本大、
[5]帝京大医真菌研究センター

11:50～12:50　ランチョンセミナー 6【HAE 診療における早期診断と早期治療の重要性】

座長：浅野 善英（東北大）
葉山 惟大（日本大）

LS6-1　HAE の早期診断に向けた病態と診断・鑑別のポイント
猪又 直子（昭和医大）

LS6-2　HAE の急性期治療/長期発作予防治療
本田 大介（千葉大大学院医学研究院腎臓内科学）

共催：武田薬品工業株式会社

13:00～14:05　一般演題 9【紅斑、紫斑、血管炎】

座長：梅林 芳弘（東京医大八王子医療センター）
堺 則康（東京医大）

62　側腹部に区域性に生じた黄色苔癬の 1 例
奥口 大充[1]、浅野 善英[1]、千釜 理佳[2]
[1]東北大、[2]ちかまりか皮膚科クリニック　宮城県仙台市

63　炎症性腸疾患に伴うストーマ周囲壊疽性膿皮症の管理方針
若松 理香子、船積 雅登、沖山 奈緒子
東京科学大

64　食道癌の術前化学療法中に生じた急性感染性電撃性紫斑病の 1 例
山本 美玲、植竹 優香、高橋 栞奈、須長 幸嗣、須山 孝雪、片桐 一元
獨協医大埼玉医療センター

65　下肢の浮腫を契機に診断された好酸球性多発血管炎性肉芽腫症
江藤 洋子[1]、高木 賢治[2]、森 浩章[2]
[1]彩の国東大宮メディカルセンター、
[2]彩の国東大宮メディカルセンターリウマチ膠原病内科

66　種々の関連症状が先行し、多発皮膚潰瘍を生じたサルコイド血管炎の 1 例
椎野 章乃、河合 良奈、片桐 一元
獨協医大埼玉医療センター

67　サルコイド血管炎の 1 例
荒井 紗弓、土橋 人士、渡邉 玲
順天堂大

68　潰瘍性大腸炎患者に生じた IgA 血管炎の 2 例
山本 美友貴、大浦 葉子、山本 俊幸
福島県立医大

69　環状を呈した Recurrent cutaneous eosinophilic vasculitis の 1 例
善家 由香理[1]、大石 友紀[2]、恭博 恭博[3]、新井 達[1]
[1]聖路加国際病院、
[2]Department of Family Medicine, SUNY Upstate Medical University, Syracuse, NY, USA.、[3]NTT東日本関東病院リウマチ膠原病科

14:05～15:10　一般演題 10【間葉系腫瘍（リンパ腫含む）①】

座長：濱田 利久（国際医療福祉大成田病院）
鈴木 大介（相模原病院）

70　アトピー性皮膚炎に対して JAK 阻害薬およびデュピルマブ治療中、皮膚症状が増悪し菌状息肉症と診断された 1 例
賀嶋 希、長久 大介、當間 由芽乃、安田 健一、脇 裕磨
東京慈恵会医大柏病院

71　末梢血体細胞モザイクバリアントを同定した肥満細胞症の 1 例
小野 弘登[1]、竹田 公信[1]、浦 大樹[2]、研 澄仁[2]、新井田 要[2]、清水 晶[1]
[1]金沢医大、[2]金沢医大ゲノム医療センター

72　右外果と手指に難治性潰瘍を生じたメトトレキサート関連リンパ増殖性疾患の 1 例
田中 瑠奈、中村 創、長島 優、宮川 まみ、金岡 美和
横浜市立大市民総合医療センター

73　乳房温存術後に生じた放射線誘発性血管肉腫―症例報告と本邦報告例のまとめ―
佐竹 恭佳、寺田 明莉、相樂 千尋、六戸 大樹、赤坂 英二郎
弘前大

74　外科的切除により良好な経過を得ている Dermatofibrosarcoma protuberans の肺転移の 1 例
水野 雄斗[1]、石川 秀幸[1]、松村 舞依[2]、加藤 生真[2]、山中 正二[2]、藤井 誠志[2]、
山口 由衣[1]
[1]横浜市立大、[2]横浜市立大病理診断科・病理部

75　下腿に生じた prurigiform angiomatosis の 1 例
山内 巴那[1]、中川 智絵[1]、佐藤 祐樹[1,2]、梅影 香央里[1]、岸部 麻里[1]、山本 明美[1]、
藤田 靖幸[1]
[1]旭川医大、[2]稚内市立病院

76　縮小マージン切除にて加療した左頬部隆起性皮膚線維肉腫の長期観察例
宋 基旦、長谷川 絢哉、碇 真雄、井上 禎夫、小森 崇矢、中村 泰大
埼玉医大国際医療センター

77　急性転化後も無治療で 1 年以上生存した成人 T 細胞白血病リンパ腫慢性型の 1 例
小宮山 紗代、宮城 拓也、下山 奈穂、工藤 真未、下地 志月、大嶺 卓也、柳 輝希、
高橋 健造
琉球大

15:20～16:20　アフターヌーンセミナー 6【敏感肌サイエンス 2025～皮膚マイクロバイオームと化粧指導～】

座長：本田 哲也（浜松医大）
石河 晃（東邦大）

AS6-1　皮膚常在菌バランスからみた敏感肌の最新知見
柴垣 奈佳子（（株）資生堂みらい開発研究所）

AS6-2　敏感肌を考える～日常診療に不可欠な化粧指導～
関東 裕美（稲田堤ひふ科クリニック　神奈川県川崎市）

共催：株式会社資生堂

16:40～18:40　スポンサードシンポジウム 1
【アトピー性皮膚炎における“寛解”を考える
～免疫細胞のそれぞれの役割について～】

座長：茂木 精一郎（群馬大）
大久保 ゆかり（東京医大名誉教授）

SSY1-1　アトピー性皮膚炎に関わる免疫担当細胞
沖山 奈緒子（東京科学大）

SSY1-2　皮膚生理機能からみるアトピー性皮膚炎の病態と治療
下田 由莉江（杏林大）

SSY1-3　アトピー性皮膚炎患者において「質の高い寛解」を実現するための治療
片桐 一元（獨協医大埼玉医療センター）

共催：サノフィ株式会社/リジェネロン・ジャパン株式会社

第 7 会場　4F 扇

9:30～10:35　一般演題 3【水疱症①】

座長：石井 健（東京歯科大市川総合病院）
高橋 勇人（慶應義塾大）

16　脱毛を呈した落葉状天疱瘡の 1 例
森田 惇晶、坊木 ひかり、吉崎 麻子、柴田 彩、佐藤 伸一
東京大

17　尋常性天疱瘡と水疱性類天疱瘡の合併が疑われた 1 例
杉山 智子[1]、嶋津 苗胤[1]、松本 賢太郎[1]、古賀 浩嗣[2]、石井 文人[2]
[1]静岡済生会総合病院、[2]久留米大

18　寛解から長期間経過した水疱性類天疱瘡患者に生じた抗 BP230 抗体陽性 Dyshidrosiform Bullous Pemphigoid
古川 和仁、八尾 祥吾、六戸 大樹、赤坂 英二郎
弘前大

19　日米のガイドライン、保険制度の差異による制約下で治療に苦慮した尋常性天疱瘡の 1 例
近藤 惠太、倉田 麻衣子、久保 斐嵩、工藤 愛巳、福山 雅大、大山 学
杏林大

20 抗 Dsg1 抗体のみ高値を示した口腔病変主体に経過した尋常性天疱瘡の 1 例
兵部 理恵[1]、水戸 綾子[1]、鈴木 理紗[1]、高橋 文[1]、佐藤 彩夏[2]、安田 卓史[2]、
古賀 浩嗣[3]、石井 文人[3]、原田 和俊[1]
[1]東京医大、[2]同口腔外科学、[3]久留米大

21 胃癌周術期に尋常性天疱瘡を併発した 1 例
松原 真生、植竹 優香、島村 明里、河合 良奈、須山 孝雪、片桐 一元
獨協医大埼玉医療センター

22 ベーチェット病長期間治療後に発症した水疱性類天疱瘡の 1 例
櫻井 純一郎[1]、植木 理恵[1]、梶野 一徳[2]
[1]順天堂大東京江東高齢者医療センター、[2]順天堂大病理診断科

23 経表皮感染が契機と考えられた腎機能障害を呈した潜性栄養障害型表皮水疱症の 1 例
前川 順子[1]、武市 拓也[1]、福田 良子[1]、鈴木 由以佳[1]、室 慶直[1]、秋山 真志[1]、
藤枝 久美子[2]、岩田 健一[3]
[1]名古屋大、[2]同腎臓内科、[3]同中央感染制御部

10:35～11:40 一般演題 4【膠原病、水疱症②】

座長：入澤 亮吉（東京医大）
玉城 善史郎（埼玉県立小児医療センター）

24 新潟大学皮膚科で経験した IgG4 関連疾患 6 例の検討
武居 いづみ、林 良太、樋口 麻衣、島田 奏、長谷川 瑛人、濱 菜摘、阿部 理一郎
新潟大

25 ペムブロリズマブ投与後に発症した抗 Scl-70 抗体陽性全身性強皮症の 1 例
菅家 睦弥[1]、山本 麻琴[1]、松澤 高光[1]、田中 繁[2]、影山 聡子[3]、岸本 充[4]、猪爪 隆史[1]
[1]千葉大、[2]千葉大アレルギー・膠原病内科、[3]千葉大病理診断科、[4]千葉大病態病理学

26 間質性肺炎が先行し抗 Ha 抗体陽性であった無筋症性皮膚筋炎の 1 例
深谷 薫子、奥野 聡、端本 宇志、佐藤 貴浩
防衛医大

27 筋炎を合併した抗 RuvBL1/2 抗体陽性全身性強皮症の 1 例
濱村 優佳里[1]、乙竹 泰[1]、石川 秀幸[1]、渡邊 友也[1]、小宮 孝章[2]、阿部 竜太[3]、
古宮 裕泰[3]、山口 由衣[1]
[1]横浜市立大、[2]横浜市立大血液・リウマチ・感染症内科、
[3]横浜市立大神経内科・脳卒中科

28 再燃のため 4 コース以上のリツキシマブを要した天疱瘡の 3 例
朝比奈 泰彦[1]、角田 梨沙[1]、舩越 建[1]、山上 淳[2]、高橋 勇人[1]、天谷 雅行[1]
[1]慶應義塾大、[2]東京女子医大

29 抗ラミニン 332 抗体陽性粘膜類天疱瘡の眼症状に対してシクロフォスファミドパルス療法が奏効した 1 例
佐藤 葵[1]、朝比奈 泰彦[1]、高橋 ちあき[1]、伊東 可寛[1]、鈴木 孝典[2]、高橋 勇人[1]、天谷 雅行[1]
[1]慶應義塾大、[2]慶應義塾大眼科

30 抗 Dsg1 抗体のみが陽性であった口腔粘膜症状優位の尋常性天疱瘡
門口 佳乃子、笹岡 佑輔、水田 栄樹、池田 彩、爲政 大幾
医誠会国際総合病院

31 IgA 型後天性表皮水疱症を疑った 1 例
福井 伶奈[1]、梅本 尚可[1]、松本 崇直[1]、鈴木 正之[2]、石井 文人[3]、前川 武雄[1]
[1]自治医大さいたま医療センター、[2]自治医大、[3]久留米大

11:50～12:50 ランチョンセミナー 7 【Start now For the future～乾癬と掌蹠膿疱症の治療戦略を再考する～】

座長：河野 通浩（秋田大）
佐伯 秀久（日本医大）

LS7-1 医療連携を意識した、皮膚科における乾癬/掌蹠膿疱症治療戦略：皮膚を診て、全身を知る？！！早期治療介入は必要か。
野﨑 尋意（旭川医大）

LS7-2 将来を見据えた乾癬治療ストラテジー
江川 形平（鹿児島大）

共催：ヤンセンファーマ株式会社

13:00～14:05 一般演題 11 【乾癬、膿疱症①】

座長：山﨑 文和（東海大）
足立 真（関東労災病院）

78 実臨床で生物学的製剤を使用した乾癬患者の 12 ヵ月の PASI 絶対値評価：PSoHO 試験
望月 潔隆[1]、Julia-Tatjana Maul[2]、Bernd Bonnekoh[3]、Luis Puig[4]、Robert McKenzie[1]、Anastasia Lampropoulou[1]、Georgia Martimianaki[1]、Konstantinos Fotiou[1]、Andreas Pinter[5]
[1]Lilly、[2]USZ、[3]OVGU、[4]Hosp de Sant Pau、[5]U Hosp Frankfurt

79 慢性根尖病巣の治療介入により皮疹の寛解を得られた掌蹠膿疱症の 1 例
小林 知子[1]、尾山 徳孝[1]、阿久津 純一[2]、吉村 仁志[2]、長谷川 稔[1]
[1]福井大、[2]福井大歯科口腔外科

80 掌蹠病変を伴う好酸球性膿疱性毛包炎の 1 例
奥井 爽介、秋元 隆太、福田 知雄
埼玉医大総合医療センター

81 日本人尋常性乾癬患者におけるタピナロフクリームの維持効果～第３相臨床試験 事後解析～

島宮 麻紀子[1]、遠山 裕之[1]、北島 裕之[1]、五十嵐 敦之[2]
[1]鳥居薬品株式会社メディカルアフェアーズ部、
[2]いがらし皮膚科東五反田　東京都品川区

82 乾癬性関節炎患者におけるデュークラバシチニブの 52 週までの有効性と安全性：国際共同第３相試験（POETYK PsA-2）

森田 明理[1]、Phillip J. Mease[2]、Vinod Chandran[3]、April W. Armstrong[4]、Ricardo Blanco[5]、Alexis Ogdie[6]、Evan Siegel[7]、Alice B. Gottlieb[8]、Xiaofeng Zeng[9]、Diamant Thaçi[10]、岸本 暢將[11]、Hendrik Schulze-Koops[12]、Alan Kivitz[13]、Eva Dokoupilová[14]、Eric M. Ruderman[15]、Michael Plewinski[16]、Kejia Wang[16]、Caroline Sardinas[16]、James Thielke[16]、Eleni Vritzali[16]、John Vaile[16]、Atul Deodhar[17]
[1]名古屋市立大、[2]UW、[3]UHN、[4]UCLA、[5]IDIVAL、[6]HUP、[7]ARA、[8]ISMMS、[9]PUMCH、[10]CCIM、[11]杏林大、[12]LMU Munich、[13]ACCR、[14]MU、[15]FSM、[16]BMS、[17]OHSU

83 日本人乾癬患者に対するデュークラバシチニブ５年間の有効性及び安全性

大久保 ゆかり[1]、森田 明理[2]、多田 弥生[3]、今福 信一[4]、April W. Armstrong[5]、Andrew Blauvelt[6]、John Vaile[7]、Zoran Popmihajlov[7]、Janice Li[7]、Rajesh Sawant[7]、羽廣 克嘉[7]、釣谷 克樹[7]、大槻 マミ太郎[8]
[1]東京医大、[2]名古屋市立大、[3]帝京大、[4]福岡大、[5]UCLA、[6]Blauvelt Consulting, LLC、[7]BMS、[8]自治医大

84 スペソリマブによる高齢発症汎発性膿疱性乾癬の治療経験

久保 斐嵩、千葉 由幸
相模原協同病院

85 掌蹠膿疱症性骨関節炎（PAO）に対してのアプレミラストの有効性

南川 文香、山根 万里子、馬屋原 孝恒、青山 裕美
川崎医大

14:05～15:10 一般演題 12【乾癬、膿疱症②、付属器疾患】

座長：梅垣 知子（東京女子医大足立医療センター）
松山 孝（東海大八王子病院）

86 陰部および頭部乾癬に対するリサンキズマブ（RZB）の有効性と安全性：UnIIMMited 試験

西田 絵美[1]、James Song Eingun[2]、Ackerman Lindsay[3]、Anschutz Toni[4]、Bialik Brenton[4]、Duan Chenyang[4]、Setty Arathi[4]、St. John Greg[4]、Ashley Doug[4]、Ehst Benjamin[5]
[1]名古屋市立大西部医療センター、[2]Frontier Derma、[3]Medical Derma Specialists、[4]Abbvie、[5]OMRC

87 当院における乾癬患者を対象とした生物学的製剤（IL-17 製剤、IL-23 製剤）の継続率の比較検討

水野 謙太、中野 小百合、川瀬 正昭
東京慈恵会医大葛飾医療センター

88 乳癌術後の創部から生じ診断に苦慮した superficial granulomatous pyoderma（SGP）の 1 例
荒井 将季[1]、藤尾 由美[1]、兵頭 麻里[1]、木花 いづみ[1]、米山 公康[2]、栗原 佑一[1]
[1]平塚市民病院、[2]平塚市民病院乳腺外科

89 劇症型心筋炎後に毛孔性扁平苔癬を発症した 1 例
入間田 萌花[1]、髙橋 岳浩[1]、岡﨑 俊樹[1]、瀬川 優里恵[1]、高橋 拓矢[1]、関根 真奈[1]、千葉 倫子[1]、志藤 光介[1]、岡 謙太[1]、髙橋 隼也[1]、林 秀華[2]、後岡 広太郎[2]、安田 聡[2]、浅野 善英[1]
[1]東北大、[2]東北大循環器内科

90 青少年重症円形脱毛症患者に対するバリシチニブの有効性と安全性：BRAVE-AA-PEDS 試験結果
大山 学[1]、J Soung[2]、O Kwon[3]、D Saceda-Corralo[4]、C Lynde[5]、B Lockshin[6]、Y Dutronc[7]、S Colvin[7]、K Denning[7]、T Das[7]、井阪 圭孝[7]、竹ノ内 一雅[7]、T Passeron[8]
[1]杏林大、[2]SoCal Derm、[3]Seoul NU、[4]HURyC、[5]U Toronto、[6]DermAssoc、[7]Lilly、[8]U Cote d'Azur

91 実臨床における日本の円形脱毛症に対するバリシチニブ使用患者（15 歳以上）の特性及び治療パターン：後ろ向き観察研究
井阪 圭孝、小島 泰輔、三木 康裕、西川 裕美子、板倉 仁枝
日本イーライリリー株式会社

92 陰部に巨大な腫瘤形成を認めた重症化膿性汗腺炎の 1 例
安田 瑞綺、今本 聡美、山上 淳、石黒 直子
東京女子医大

15:20〜16:20 アフターヌーンセミナー 7
【薬事承認された超音波照射器“Sofwave”〜真皮へのアプローチによるスキンリジェネレーション治療〜】

座長：山本 有紀（和歌山県立医大）

AS7-1 同期平行型超音波ビーム SUPERB®によるたるみ治療の臨床報告
西川 礼華（湘南美容クリニック）

AS7-2 同期平行型超音波機器による治療の実際：熱特性の観点から
奥 謙太郎（HILLS GRACE CLINIC　神奈川県横浜市）

共催：株式会社ジェイメック

17:40〜18:40 イブニングセミナー 2
【乾癬診療の守破離〜患者に応じた最適な治療戦略とは〜】

座長：朝比奈 昭彦（東京慈恵会医大）
今福 信一（福岡大）

ES2-1 バイオスイッチ時代の炎症性皮膚疾患治療：リアルワールドデータ解析と AI 活用の双方向的展開
足立 剛也（慶應義塾大）

ES2-2　乾癬治療でのイルミア®の使いどころ
神谷 浩二（自治医大）

共催：サンファーマ株式会社

第 8 会場　3F グレース

9:30～10:35　一般演題 5【湿疹、光線過敏、角化異常】

座長：桒野 嘉弘（帝京大溝口病院）
種瀬 啓士（東邦大）

32　Panton-Valentine leukocidin（PVL）産生 MRSA による皮下膿瘍を反復した 1 例
朝比奈 優実[1,2]、木蜜 徹[1]、須賀 康[2]、金子 寛[3]、中南 秀将[3]、阿部 澄乃[1]
[1]東京臨海病院、[2]順天堂大浦安病院、[3]東京薬科大

33　かかとの乾燥症状に対するファインファイバー（FF）シートの有効性評価
中里 貴々[1]、菊池 麻実子[1]、田邊 弘毅[1]、井上 麻由子[1]、石田 耕一[1]、川島 眞[2]
[1]花王株式会社、[2]東京女子医大

34　デュピルマブ投与後も痒みや皮疹が残存した結節性痒疹に対して、ネモリズマブを投与した症例の検討
三間 芳人[1]、山本 真紗子[1,2]、五十棲 健[2]
[1]東京大、[2]東京警察病院

35　遅発性難聴を伴った色素性乾皮症 D 群の 1 例
小笠原 理香[1]、上原 奈津美[2]、森脇 真一[3]、並川 健二郎[4]、久保 亮治[1]
[1]神戸大、[2]神戸大耳鼻咽喉科、[3]大阪医科薬科大、[4]国立がん研究センター中央病院

36　偽膜性結膜炎を合併し腫瘍随伴性天疱瘡との鑑別を要した重症型扁平苔癬の 1 例
小松 彩子[1]、高村 直子[1]、寺島 日向子[1]、杉浦 暖人[1]、井上 舞[1]、浅井 知佳[1]、
田中 理子[1]、石井 文人[2]、古賀 浩嗣[2]、山口 由衣[1]
[1]横浜市立大、[2]久留米大

37　妊娠中に発症し出産後軽快傾向となった急性痘瘡状苔癬状粃糠疹の 1 例
細井 美都、高橋 美帆、丸 玲奈、土橋 人士、野口 篤、松田 晃徳、渡邉 玲
順天堂大

38　顔面に生じた毛孔性扁平苔癬の 1 例
堀見 悠衣[1]、吉田 憲司[1]、森須 祥子[1]、足立 太起[1]、橋本 由起[1]、種瀬 啓士[1]、
清水 理会[2]、石河 晃[1]
[1]東邦大、[2]しみず皮膚科　東京都品川区

10:35～11:40 一般演題 6【基礎研究】

座長：山上 淳（東京女子医大）
石塚 洋典（大阪大）

39 新素材 Craze-tex®生地のセリシン徐放による皮膚残留性に関する研究

渡邉 幸夫[1]、長曽我部 竣也[2]、森田 渉[3]、笈田 亮[4]、澤田 忠信[1]
[1]明星大、[2]ファイバークレーズ株式会社、
[3]新潟県工業技術総合研究所・素材応用技術支援センター、[4]株式会社クリメイト

40 ドライスキンモデルにおけるノイロトロピンの鎮痒作用の解明

古宮 栄利子[1,2]、冨永 光俊[2]、本田 耕太郎[2]、豊澤 優衣[2,3]、鎌田 弥生[2]、外山 扇雅[2]、
小島 豪[2,3]、渡邉 マキノ[1]、南 彰[1]、高森 建二[2,3]
[1]順天堂大薬学部機能形態学研究室、
[2]順天堂大環境医学研究所・順天堂かゆみ研究センター、[3]順天堂大浦安病院

41 抗原由来プロテアーゼ-IL-33-制御性 T 細胞軸に着目したアトピー性皮膚炎の新規治療法の開発

外山 扇雅[1]、左 穎[1]、鎌田 弥生[1]、吉川 宗一郎[1]、冨永 光俊[1]、高森 建二[1,2]
[1]順天堂大、[2]順天堂大浦安病院

42 ソラフェニブによる表皮角化細胞毒性に対する抗真菌薬の細胞保護作用と臨床的効果の検討

加藤 塁[1,2]、鎌田 弥生[1]、冨永 光俊[1]、岸 龍馬[1,2]、金子 高英[2]、辻村 晃[3]、須賀 康[2]、
高森 建二[1,2]
[1]順天堂大環境医学研究所・順天堂かゆみ研究センター、[2]順天堂大浦安病院、
[3]順天堂大浦安病院泌尿器科

43 ドライスキン誘発性機械的アロネーシスにおけるヤヌスキナーゼの寄与の解明

豊澤 優衣[1,2]、古宮 栄利子[1]、金子 高英[2]、須賀 康[2]、冨永 光俊[1]、高森 建二[1,2]
[1]順天堂大環境医学研究所・順天堂かゆみ研究センター、[2]順天堂大浦安病院

44 ベンズイミダゾール系駆虫薬によるセマフォリン 3A の発現誘導作用の解明

鎌田 弥生[1]、藤田 未麗[1]、種元 七海[1]、金子 高英[2]、須賀 康[2]、冨永 光俊[1]、高森 建二[1,2]
[1]順天堂大環境医学研究所・順天堂かゆみ研究センター、[2]順天堂大浦安病院

45 セマフォリン 3A の発現を誘導する食品化合物の *in vitro* スクリーニング

種元 七海[1]、鎌田 弥生[1]、金子 高英[2]、須賀 康[2]、冨永 光俊[1]、高森 建二[1,2]
[1]順天堂大環境医学研究所・順天堂かゆみ研究センター、[2]順天堂大浦安病院

11:50～12:50 ランチョンセミナー 8【手掌多汗症診療のイマ～患者さんとの対話～】

座長：五十嵐 敦之（いがらし皮膚科東五反田）

LS8-1 “続けたい”を支える治療を目指して―アポハイドローション継続使用にあたって医師の指導の工夫―

稲澤 美奈子（小杉町クリニック皮膚科形成外科　神奈川県川崎市）

LS8-2　手掌多汗症の治療継続を導くコツ～エビデンスを絶妙に落とし込む診療の提案～
藤本 智子（池袋西口ふくろう皮膚科クリニック　東京都豊島区）

共催：久光製薬株式会社

13:00～14:05　一般演題 13【蕁麻疹、薬疹】

座長：片桐 一元（獨協医大埼玉医療センター）
小林 里実（聖母病院）

93　レミブルチニブ：慢性特発性蕁麻疹患者における生物学的製剤投与歴の有無による有効性への影響（REMIX-1/2 試験）
秀 道広[1]、S. Saini[2]、A. Giménez-Arnau[2]、M. Lebwohl[2]、M. Maurer[2]、M. Metz[2]、G. Mosnaim[2]、G. Sussman[2]、S. Haemmerle[3]、K. Lheritier[3]、E. Martzloff[3]、世古 規子[3]、P. Wang[3]、S. Gogate[2]
[1]広島市立病院機構、[2]治験関連施設、[3]Novartis

94　薬剤性過敏症症候群に真菌性、細菌性の菌血症を併発し死亡に至った 1 例
松本 絵里佳、吉谷 州太、宗元 紗和、福永 淳、森脇 真一
大阪医科薬科大

95　二重濾過血漿交換（DFPP）中に発症した敗血症後に寛解した中毒性表皮壊死症（TEN）の 1 例
平澤 真澄[1]、柴山 理沙[1]、吉田 雅絵[1]、出光 俊郎[1]、大野 まさみ[2]、古田 和也[3]、川島 洋平[3]、原 将希[4]、渡邊 三紀[5]
[1]上尾中央総合病院、[2]上尾中央総合病院腎臓内科、[3]上尾中央総合病院泌尿器科、[4]上尾中央総合病院総合診療科、[5]上尾中央総合病院眼科

96　ブドウアレルギーの 1 例
弓場 千晶、井岡 奈津江、水谷 浩美、服部 淳子、峠岡 理沙、益田 浩司、福本 毅
京都府立医大

97　ポナチニブによる後天性魚鱗癬を生じた 1 例
小西 克哉[1]、三津山 信治[1]、樋口 哲也[1]、中尾 三四郎[2]
[1]東邦大医療センター佐倉病院、[2]東邦大医療センター佐倉病院臨床検査部・血液内科

98　全身性エリテマトーデスに合併した遺伝性血管性浮腫（HAE）1 型の 1 例
高木 あまね、高村 さおり、福田 知雄
埼玉医大総合医療センター

99　劇症型心筋炎を合併した非典型薬剤性過敏症症候群と考えた 1 例
岸本 悠里、梅影 香央里、高橋 千晶、大坪 紗和、菅野 恭子、山本 明美、藤田 靖幸
旭川医大

100　ドセタキセルによる遅発性 Fixed erythrodysaesthesia plaque の 1 例
阿部 貴彦[1]、堀本 浩平[1]、肥田 時征[1]、宇原 久[1]、小林 景樹[2]
[1]札幌医大、[2]さっぽろ白石皮膚科クリニック　北海道札幌市

14:05～15:10　一般演題 14【蕁麻疹、薬疹、肉芽腫】

座長：福田 英嗣（東邦大医療センター大橋病院）
矢口 均（大泉皮膚科クリニック）

101　ブルトン型チロシンキナーゼ阻害剤が原因と考えられた多形紅斑型薬疹の 1 例

龍野 暁世[1]、水戸 綾子[1]、堺 則康[1]、藤森 一希[1]、前 賢一郎[1]、永井 健太[2]、原田 和俊[1]
[1]東京医大、[2]同脳神経外科

102　免疫関連有害事象と考えた線状扁平苔癬の 1 例

池田 愛梨、小松 成綱、橋本 喜夫
旭川厚生病院

103　単純ヘルペスウィルス（HSV）感染に起因した granulomatous rosacea の 1 例

片岡 和也、牧野 輝彦、清水 忠道
富山大

104　頭部に脱毛斑を認め禿髪性毛包炎が疑われたサルコイドーシスの 1 例

山本 陽織[1]、須藤 上治[1]、寺田 七子[1]、濱中 美希[1]、原田 侑弥[1]、高橋 美咲[1]、
新山 史朗[1]、浅川 奈々恵[2]、横内 幸[2]、高橋 啓[2]、福田 英嗣[1]
[1]東邦大大橋病院、[2]東邦大大橋病院病理診断科

105　免疫チェックポイント阻害薬（ICIs）によって生じた皮膚サルコイド様反応の 1 例

矢野 大輔、金子 高英、高森 建二、須賀 康
順天堂大浦安病院

106　肉芽腫性口唇炎の兄妹例

猪狩 翔平、石崎 莉子、山本 俊幸
福島県立医大

107　下腿蜂窩織炎後に発症した局面型サルコイドーシスの 1 例

山口 文太郎、境井 尚大、須永 知里、桜井 隆喜、保坂 浩臣、渡辺 秀晃
昭和医大横浜市北部病院

15:20～16:20　アフターヌーンセミナー 8
【IL-17 受容体抗体の可能性～患者さんに適した治療戦略を探る～】

座長：天野 博雄（岩手医大）
乃村 俊史（筑波大）

AS8-1　IL-17 製剤を活用する地域連携～ブロダルマブの臨床的意義～

田口 詩路麻（水戸協同病院）

AS8-2　脊椎関節炎および掌蹠膿疱症の病態と全身療法の考え方

小寺 雅也（中京病院）

共催：協和キリン株式会社

16:30～17:30 一般演題 15【メラノーマ】

座長：前川 武雄（自治医大さいたま医療センター）
並木 剛（東京科学大）

108 掌蹠に生じた BRAF 遺伝子変異陽性悪性黒色腫の 5 例

加瀬 美咲[1]、緒方 大[1]、栗崎 道賢[1]、酒井 良樹[1]、瀬下 治孝[1]、鹿毛 勇太[1]、
中野 英司[1]、山﨑 直也[1]、岸川 さつき[2]、渡邊 京子[3]、並川 健二郎[1]
[1]国立がん研究センター中央病院、[2]国立がん研究センター中央病院病理診断科、
[3]湘南藤沢徳洲会病院

109 Spitz 母斑との鑑別を要した前額部 Spitzoid melanoma の 1 例

福本 孔明[1]、新井 優希[1]、梅本 尚可[1]、今川 一郎[2]、前川 武雄[1]
[1]自治医大さいたま医療センター、[2]今川皮膚科　埼玉県さいたま市

110 BRAF＋MEK 阻害薬で加療した非 Class 1 BRAF 変異 melanoma の 2 例

鈴木 魁杜[1]、上原 治朗[1]、関山 竜五[1]、青木 佐由美[1]、石月 翔一郎[1]、後藤 啓介[2]、
秋谷 昌史[2]、北野 滋久[3]、深田 一平[4]、吉野 公二[1]
[1]がん研究会有明病院、[2]同病理部、[3]同先端医療開発科、[4]同ゲノム診療部

111 骨髄異形成症候群を合併した転移性メラノーマの 1 例

関山 竜五[1]、後藤 啓介[2]、秋谷 昌史[2]、北野 滋久[3]、山内 寛彦[4]、吉野 公二[1]
[1]がん研究会有明病院、[2]同病理部、[3]同先端医療開発部、[4]同血液腫瘍科

112 eccrine syringofibroadenoma を伴い診断に難渋した悪性黒色腫の 3 例

川村 和[1]、浦崎 智恵[1]、外川 八英[1]、岩波 佑典[2]、吉野 啓純[2]、木下 真太郎[1]、
奥山 智香子[1]、青山 和弘[1]、川原 祐[1]、小熊 玲奈[1]、猪爪 隆史[1]
[1]千葉大、[2]国保旭中央病院

113 集学的治療により 3 年間治療継続中の BRAF 陽性悪性黒色腫 stage4 の 1 例

倉片 彬臣、卜部 紘衣、内田 百佳、荒瀬 琴乃、山田 雄大、本田 遼馬、松岡 亮介、
潮見 隆之、若宮 富浩、濱田 利久、菅谷 誠
国際医療福祉大

114 当科における thin melanoma の臨床経過の検討

上原 治朗[1]、青木 佐由美[1]、関山 竜五[1]、鈴木 魁杜[1]、石月 翔一郎[1]、後藤 啓介[2]、
秋谷 昌史[2]、北野 滋久[3]、吉野 公二[1]
[1]がん研究会有明病院、[2]がん研究会有明病院病理部、[3]がん研究会有明病院先端医療科

17:40～18:40 イブニングセミナー 3【白斑治療、わたしは今こう治療する！】

座長：西田 絵美（名古屋市立大西部医療センター）

ES3-1 白斑治療、わたしは今こう治療する―当院で行ってきた光線療法やミニグラフトの実例―

櫻井 麻衣（名古屋市立大西部医療センター）

ES3-2　当院での白斑治療の実際
三上 万理子（横浜西口菅原皮膚科　神奈川県横浜市）

共催：澁谷工業株式会社/株式会社インフォワード

HS 会場① 42F 高尾

9:30～11:00　スポンサードハンズオンセミナー【フットチェックしませんか？～白癬菌を探そう～】

1　ショートレクチャー
「皮膚真菌症診断のコツ！―スムーズに診断まで到達するために―」
下山 陽也（みぞのくち南口皮ふのクリニック　神奈川県川崎市）

2　KOH 鏡検　白癬菌抗原キット　ハンズオン実習

講師
福田 知雄（埼玉医大総合医療センター）
原田 和俊（東京医大）
野口 博光（のぐち皮ふ科　熊本県上益城郡）
下山 陽也（みぞのくち南口皮ふのクリニック　神奈川県川崎市）

共催：科研製薬株式会社/マルホ株式会社

13:00～15:00　ハンズオンセミナー２【皮膚外科手術手技～色々な皮弁に親しもう～】

オーガナイザー：金子 高英（順天堂大浦安病院）
中村 善雄（慶應義塾大）

HS2

チューター：帆足 俊彦（日本医大）
須山 孝雪（獨協医大埼玉医療センター）
大芦 孝平（埼玉県立がんセンター）
末廣 敬祐（サンモール皮ふ科　千葉県旭市）
髙井 彩也華（防衛医大）
小林 研太（川崎市立川崎病院）
石川 雅士（埼玉県立がんセンター）
伏間江 貴之（東京医療センター）

共催：ジョンソン・エンド・ジョンソン　サージェリー事業本部

16:30～18:30　日本皮膚科学会　キャリア支援委員会企画 メンター＆メンティーの相談会（M＆M）

レクチャーの部：16：30～17：30

演題 1　医局崩壊は防げるか！？健全な組織運営のために医局が思い出さねばならないこと
中捨 克輝（国立病院機構埼玉病院）

演題２　皮膚科医二刀流―勤務医と開業医、ともに前向きに働くため必要なこと
堺 則康（東京医大）

相談会の部：17：30～18：30

HS 会場② 42F 富士

9:30～11:30 ハンズオンセミナー１【超音波照射器の基礎】

座長：山本 有紀（和歌山県立医大）

HS1　これから始める超音波治療の基礎
演者・術者：慶田 朋子（銀座ケイスキンクリニック　東京都中央区）
術者：櫻井 直樹（シャルムクリニック　千葉県松戸市）

企画協力・機器提供：株式会社ジェイメック

13:00～15:00 ハンズオンセミナー３【レーザー治療を始めよう！ルビーレーザー基礎編】

座長：秋田 浩孝（藤田医大ばんたね病院）

HS3　これから始めるルビーレーザーの基礎
演者・術者：菊地 克子（仙台たいはく皮膚科クリニック　宮城県仙台市）

企画協力・機器提供：株式会社ジェイメック

16:30～18:30 ハンズオンセミナー４【レーザー治療を始めよう！炭酸ガスレーザー基礎編】

座長：遠藤 英樹（大阪鉄道病院）

HS4　これから始める炭酸ガスレーザーの基礎
演者・術者：菊地 克子（仙台たいはく皮膚科クリニック　宮城県仙台市）

企画協力・機器提供：株式会社ジェイメック